

～青一色の風景～

ネモフィラ 見頃(満開)です

国営ひたち海浜公園の「みはらしの丘」では、約530万本のネモフィラが3月31日から咲き始め、現在見頃（満開）となっています。今年は2月・3月の気温が高かった影響により昨年より6日、平年より7日早く、4月8日に「見頃（7分咲き）」を迎えました。見頃のピークは22日頃まで続き、30日まで花数が比較的多い状態でお楽しみいただける見込みです。丘を覆いつくす青のネモフィラと、どこまでも続く青空が溶け合う青の絶景をご覧ください。



みはらしの丘 撮影/2023年4月16日

<ネモフィラ開花予想>

※公園ホームページでは、最新の開花予想を随時更新していきます。



◆青く可憐な花“ネモフィラ”

ネモフィラはムラサキ科(旧ハゼリソウ科)ネモフィラ属で、北アメリカ原産の一年草。高さ10～20cmほどの株に、直径2～3cmの小さな青い花を咲かせます。属名の「ネモフィラ」は、ギリシャ語の「ネモス(小森)」と「フィレオ(愛する)」を合わせた言葉で、森林の周辺に自生することに由来しています。花言葉は、その花姿から「可憐」、アメリカからヨーロッパに渡ってから現地に根付いたことから「どこでも成功」などが広く知られています。

【ネモフィラ】

■見頃時期/4月8日～30日頃まで(4月16日現在の予想) ■品種数/1品種(インシグニスブルー)

■本数/約530万本 ■場所/みはらしの丘 ■植栽面積/約4.2ha

◆国営ひたち海浜公園の誕生

国営ひたち海浜公園のある場所は、かつて日本軍水戸東飛行場があり、終戦後は米軍により射爆撃場として使われていました。昭和48年3月に日本に返還された後、「平和の象徴として公園を整備したい」という地元の強い思いにより「国営ひたち海浜公園」が誕生することになりました。昭和59年に工事中、平成3年10月5日に開園し、現在は総面積350haのうち、約215haが開園しています。

◆みはらしの丘の誕生

みはらしの丘は、米軍射爆撃場時に標的があった場所に、建設発生残土で造成された人口の丘で、高さは30m、標高が58mとなり、ひたちなか市の最高地点となります。使用した残土は大型トラック20万台分(約100万m³)となり、昭和61年から平成19年まで21年間の月日をかけて完成しました。

◆青の絶景ネモフィラの誕生

みはらしの丘に植栽する花としてネモフィラが選定されたのは、当時の植物管理担当者が、戦前戦後の歴史を持つ場所で「丘と空を同じ色にすれば、過去も忘れられるくらい違う景色になる」と考案したことが始まりです。平成14年に植栽を開始した当初は、みはらしの丘も造成中で、植栽面積1.5ha、200万本と現在の半分以下でしたが、現在は、4.2ha、530万本まで拡大。無数の爆弾や銃弾が撃ち込まれた標的の跡地は、花いっぱい丘に生まれ変わりました。



射爆撃場での演習風景



造成中の「みはらしの丘」



青空と溶け合う丘一面のネモフィラ (2023年4月16日撮影)

Information

ネモフィラモチーフの飲食・物販メニューは、公園HP「おいしいよみちBOOK」をご覧ください。

公園公式SNSもご覧ください



お問い合わせ 国営ひたち海浜公園 ひたち公園管理センター 広報係 田中・渡邊・田野

TEL:029-265-9001 FAX:029-265-9339

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4